

《提案型協働事業 検証シート》

協働事業の概要	事業名称	尼崎臨海部を活用した地域の魅力発信事業		
	団体名	NPO法人 人と自然とまちづくりと	市所管課	都市整備局公園計画・21世紀の森担当
	事業の趣旨・内容	<p>尼崎市臨海部は、基盤整備等が進み、水質を含む周辺環境も改善され、イベントも多く行われているが、市民が臨海部の魅力を十分に認識しているとは言い難く、臨海部の事業所と市民活動との関係も希薄である。そこで、臨海部の魅力を広く市民に知ってもらい、次世代のまちづくりの担い手を増やすことを目指して、29年度に実施したノウハウを活用し、臨海部を舞台にナゾ解きゲームを実施する。臨海部に興味のない無関心層を集客することで、効果的に臨海部の魅力の周知を図る。</p>		
	協働における行政の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市内各課との調整や巻き込み ・イベント内容企画 ・広報関係(ポスター等の学校及び市内公共施設への配布等) ・当日運営(設営、受付・案内、後片付け、ボランティアスタッフの対応) ・終了後の振り返り、次年度の検討 		
協働における市民の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・参加団体との調整や巻き込み ・会場の確保 ・ボランティアスタッフの確保 ・当日使用する資材の確保 ・イベント内容企画 ・広報関係(ポスター・チラシの作成、配布等) ・当日運営(設営、受付・案内、後片付け、ボランティアスタッフの対応) ・終了後の振り返り、次年度の検討 			

■ 市民と行政のこれまでの動き ■

年月	できごと
平成30年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・協定書の締結及び補助金交付の決定 ・ナゾ作成(～平成30年8月)
平成30年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・現地下見
平成30年8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット等へ情報掲載 ・サマーセミナー参加(8/5)
平成30年9月	<ul style="list-style-type: none"> ・プレ実施
平成30年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・市報での周知 ・実施(10/20)

■ 評価会議における意見など ■

1	イベント限定ではなく、QRコードを常設化できると良い。
2	若者が主なターゲットの取組だと思われる。シニア層をターゲットにした取組についても、可能な範囲で進めてほしい。
3	都市公園法が改正されており、パークマネジメントの取組が拡大していく。注視してほしい。
4	様々な人が関わる中で、NPOとしての成長がみられる。

■ 所管課意見 ■

評価会議からの提案事項	意見
<p>たとえば尼崎城の取組と21世紀の森の取組など、様々な取組を有機的につなぐことで、防災などの新たな視点も生まれていくと考えるが、様々な分野の人の横連携を図るという点は、行政も含めまだ弱い。関心を持った人や、新たなアイデアを持つ人が生まれてきていることから、そうした人たちを中間支援組織的につないでいくようなことができると望ましい。また、市の他の部門と連携を図ることによっても、取組の幅が広がっていくと考える。</p>	<p>謎解きという手法は評価しているが、一旦休止し、次の段階として臨海部の魅力をより伝えていくために何をするのか、何が必要なのかといった今後の展望を考えるための振り返りを行う必要がある。引き続き、より効果的な協働のあり方を検討していきたい。</p> <p>また、21世紀の森構想を推進するために、森の会議(活動体 = 構想の推進体が交流・情報交換を行うプラットフォーム)が設定されており、その場を活用して、連携を図ることができればと考えている。</p>

■ 市 総括 ■

<p>平成30年度は、事業を実施する過程で様々な人を巻き込んで実施する中で、事業の魅力が向上しており、臨海部に関心なかった層が関心を持つようになるなど、しっかりと状態変化を起こしている。また、昨年度の振り返りを踏まえて、継続的な事業実施に向けた取組を進めている。</p> <p>市としては、県や庁内各課との調整及び巻き込みを図るなど、強みを生かした関わりを持つことができ、協働による相乗効果を生み出すことができた。</p> <p>今年度は、本市の臨海部の活性化に係る事業全体のあり方を検討する事業の受託者として関わる中で、この事業で得たノウハウや所管課とのつながりを生かした活躍を期待するとともに、市としても引き続きより効果的な協働のあり方を検討していく。</p>
--

以上